

1 日 時 令和 3 年 7 月 15 日 木曜日
開会 10 時 00 分 閉会 11 時 30 分

2 場 所 京都市総合教育センター 第 1 研修室

3 出席者	教 育 長	稲田 新吾
	委 員	奥野 史子
	委 員	高乗 秀明
	委 員	笹岡 隆甫
	委 員	野口 範子
	委 員	松山 大耕

4 欠席者 なし

5 傍聴者 4 名

6 議事の概要

(1) 開会

10 時 00 分、教育長が開会を宣告。

(2) 議事の概要

ア 議事

議案 1 件

イ 議決事項

議案第 12 号 令和 4 年度に京都市立小・中・義務教育学校育成学級及び総合支援学校
において使用する教科書の採択について

(事務局説明 菅野 総合育成支援課長)

小・中・義務教育学校の通常学級や高等学校の教科書については、文部科学省の検定を経た教科書を使用することとなっており、教育委員会はそれらの検定教科書の中から採択することとなっているが、総合支援学校及び小・中・義務教育学校の育成学級においては、それぞれの子どもの障害の状況に応じて、検定教科書の他に、知的障害の段階に応じて文部科学省で著作された教科書、絵本や図鑑などの一般図書の中から採択することとなっている。とりわけ、一般図書については、昨年度の実績で、小・中学校、高等学校合わせて 1,181 点と数多くの一般図書を教科書として選定し、採択いただいたところである。こうした一般図書は、本が絶版となるなど一部供給が不能となること等があるため、毎年度新た

な教科書を選定している。

今回の選定にあたっては、4月20日の教育委員会で議決いただいた教科書採択に関わる基本方針に基づき、教科書選定委員会を設置させていただいた。委員については、学識経験者、保護者代表、教員、教育委員会事務局から、委員・専門委員あわせて21名で構成し、小学校・義務教育学校（前期課程）育成学級・総合支援学校小学部、中学校・義務教育学校（後期課程）育成学級・総合支援学校中学部、総合支援学校高等部の3グループに分かれて調査研究を行った。

その後、本来であれば、会議形式で3回の選定委員会会議を開催する予定であったが、この間の緊急事態宣言、それに続くまん延防止等重点措置もあったため、昨年度に引き続き、第1回及び第2回の選定委員会については、書面により確認する方法での実施とし、それぞれ資料送付日を開催日としている。こうした中で、選定委員が調査研究を進め、7月6日に第3回の選定委員会を会議形式で開催した。

義務教育学校前期課程を含む小学校の育成学級及び支援学校の小学部においては、小学校で使用する検定教科書に加え、小学校の育成学級及び支援学校の小学部用に選定する文部科学省著作教科書及び一般図書を、義務教育学校後期課程を含む中学校育成学級及び総合支援学校中学部においては、小中の検定教科書・文科省著作教科書と一般図書、総合支援学校高等部においては、小中高の検定教科書・文科省著作教科書と一般図書を使用する教科書としており、今回の総合支援学校・育成学級教科書選定委員会においては、一般図書について諮問し、答申を受けたところである。

今回の選定委員会では、一般図書について、小学校・義務教育学校（前期課程）育成学級及び総合支援学校小学部用に452点、中学校・義務教育学校（後期課程）育成学級及び総合支援学校中学部用に320点、支援学校高等部用に447点の合計1,219点を選定した。なお、本年度、新たに選定したものが100点、供給不能等が62点、差し引き38点の増となっており、大変多くの一般図書について選定いただいたところである。

教科書展示会についてであるが、総合教育センターでは6月4日から7月1日まで実施し、右京中央図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を2週間後ろ倒しにし、6月21日から7月8日まで実施した。閲覧者数については、設置の名簿に記載があった数のみ計上しており、当センターでは72人、右京中央図書館では10人の方に閲覧いただいた。

なお、育成学級及び総合支援学校教科書については、特に閲覧者からの意見書の提出はなかった。選定した図書については、総合教育センター3階のカリキュラム開発支援センターに配架を行う予定をしているところであり、今後とも保護者や市民に分かりやすい展示となるよう努めてまいりたい。

（事務局説明 小田 首席指導主事）

教科書選定委員会において選定した、令和4年度の教科用図書として使用する一般図書について、本日は、今年度に新規採択候補図書となった一般図書の一部を紹介させていただく。

まず、小学校・義務教育学校（前期課程）育成学級及び総合支援学校小学部で新規採択候補となった図書26冊の中から2冊について御説明する。

国語の「どんめくり」である。てんぷらどん、かつどん、きつねうどんなど、上と下のページを別々にめくると、さまざまな言葉が絵と共に出てくる。食べ物だけでなく、動物、

おばけなど、子ども達にとって興味関心のある言葉がたくさん登場し、絵を見ながら次にどんな言葉が出て来るのか、期待感を膨らませ、言葉あそびをすることができる。言葉の組み合わせがとてもユニークなので、想像力をふくらませながら楽しんだり、リズムカルに読んだり、子どもと一緒に声を出して読んだり、「これは好き？」、「おいしい？」など、やりとりをしながら楽しんで読む活動ができる。できる言葉の組み合わせは 200 種類以上あり、言葉の組み合わせを楽しむことができる絵本である。

音楽の「おとがなるしかけえほん はじめてのオーケストラ」である。親しみやすいイラストで、オーケストラとの出会いに使いやすいしかけ絵本である。ページにボタンがついており、押すと、チューニングの場面や、管楽器や弦楽器などの各楽器の演奏を聴くことができる。「これはどんな音かな？」と、子どもが音楽に対して興味関心をもつきっかけを作ってくることが期待できる。ページの終わりにはQRコードがあり、GIGA端末やスマートフォンなどを使って読み込むと、「ハンガリー舞曲第5番」を聴くことができる。「オーケストラ入門」の導入や音楽鑑賞教室の事前学習としても使用でき、楽器の実物や写真などを提示する活動と組み合わせる学習をすると、より効果的である。

続いて、中学校・義務教育学校（後期課程）育成学級及び総合支援学校中学部で新規採択候補図書となった33冊の中から2冊について御説明する。

書写の「白川静文字学に学ぶ 漢字なりたちブック1年生改訂版」である。本書は、漢字に親しむための書籍となっている。「人や人の体をあらわす漢字」、「自然をあらわす漢字」、「動物」、「数」、「道具」などモノの形を現した象形文字の80字がグループに分けられ、漢字の成り立ちがイラストなどでわかりやすく掲載されている。文字に対応した読みの用例が多く、子どもの興味・関心や実態に応じて、楽しく深く学ぶことができる。同じく「白川静文字学に学ぶ 漢字なりたちブック2年生改訂版」においても、とりあげた160字について、象形文字、会意文字、形成文字に分けられて編集されており、難しそうに見える漢字も、なりたちを知ることで身につけやすかったり、部首を合わせた漢字の仕組みなどについて漢字に親しんだりできる工夫がされている。

社会の「めくってはっけん！せかいちずえほん」である。本書は、イラストで世界の姿や各地方の特徴が分かる、はじめて地図をみる生徒にとっても親しみが持てて、分かりやすい内容となっている。ページごとに扉がついており、扉をめくるとメッセージやその地域ごとの詳しい情報が分かりやすい言葉で書かれているなど、読みながら楽しく学ぶことができるようになっている。国旗一覧付きの世界地図が付録としてついており、合わせて見ることで、学びを深めることもできるなど、楽しみながら世界の場所や特徴を把握できるようになっている。

続いて、総合支援学校高等部において使用する新規採択候補図書41冊の中から2冊について御説明する。

数学の「ひとりだちするための 算数・数学ワーク1 お金編」である。この本は、生活のいろいろな場面における「計算」に、演習問題を通して取り組める内容になっている。全体の構成として、「買い物・出かける・契約・手続き・お金の計画」といった生活に身近な内容で構成されている。例えば、「買い物」では、スーパーやコンビニでの買い物から、ネットでの買い物やポイントの活用など、また、「出かける」では、ラーメン屋などの飲食店の利用や、映画館・遊園地・旅行へ行くときなどについて、お金の使い方や計画などの演習問題に取り組むことができる。その他、スマートフォンの契約場面や宅配便で荷物を送る、小遣い帳をつけるという場面などの演習もある。演習問題の中にコラムが掲載され

ており、将来のための貯金の必要性や方法などが、平易な言葉・分かりやすい文章で説明されている。どこからでも学ぶことができ、繰り返し活用することができるなど、数学とともに生活規範についても学べる内容となっている。

福祉の「介護で使える言葉がけ シーン別実例 250」である。この本は、介護の現場で役立つ「言葉がけ」の基本を、「起きない」「寝ない」「入浴しない」「排泄・整容」「食べない」「レクリエーション不参加」などのシーン別に、いますぐ使える対応テクニックが多数紹介されている。例えば、体位転換をする際の、「これから体の向きを少し変えますね」「ちょっと触ります。痛かったらおっしゃってください」などの言葉がけが具体的に記載されている。介護現場での利用者に対する言葉がけの基本的なことが記載されているが、高齢者に対する言葉がけの心構えや身だしなみ、話す時の立ち位置や気持ちを読み取ることなど基本的なマナーについても記載されており、日常の生活におけるさまざまな習慣や人とのかかわり方についても生かすことができる一冊となっている。具体的な言葉がけを通して、「してはいけない行動」や、「なぜそうするか」の解説も書いてあり、実習や就労に役立つ内容となっている。

このように、総合支援学校や育成学級では、小学校、中学校、高等学校と同じ検定教科書の他、文部科学省著作教科書や一般図書を、子どもの発達の段階や障害の特性に合わせて教科書として使用することとしている。こうした中で、別紙一覧のとおり、採択することとしたい。御審議のほど、よろしく願いたい。

(委員からの主な質問・意見)

【教 育 長】多くの一般図書の中から教科書を選ぶために工夫した点は。

【事 務 局】一般図書については、それぞれの書籍内容等を記載した資料があり、発達の目安についてもA・B・Cと三段階に分けて記載している。Aは話し言葉も書き言葉も獲得していない段階、Bは話し言葉は獲得しているが、書き言葉は獲得できていない段階、話し言葉も書き言葉も獲得できてる段階はCである。A段階の子どもに、C段階の教科書は難しいなど、教科書を選ぶ一つの目安にしている。

【笹岡委員】今回新たに選定したものが100点、供給不能が62点あったとのことだが、供給不能以外に、時代に合わず不採択となるようなことはあるのか。また、これまでに採択したが、実際使われていなかった教科書も不採択としているのか。

【事 務 局】学校が選択できる本が多いため、御指摘のように実際は使われていない教科書もあるが、不採択とはしていない。長年ベストセラーの絵本など、教員が選ぶ人気のある本については継続使用されているため、出版や供給の状況を見ながら、教科書を選定していきたい。

【松山委員】選定されている本は、総合支援学校や育成学級だけでなく、広く子ども達にとって良い本であると思うが、これらの本を一般の家庭が知ることはできるのか。政府が骨太の方針にヤングケアラー対策を入れたようであるが、例えば説明のあった「介護で使える言葉がけ」という本は、今、社会的な課題となっているヤングケアラーにとっても重要な読み物ではないかと思う。学校図書館等での紹介など、取組の工夫がひつようではないか。

【奥野委員】毎年、総合支援学校・育成学級の教科書は、素晴らしい内容の図書ばかりが

選ばれている。このような本を、小学校で子どもに渡す「図書だより」で紹介したり、配架されている図書館を周知したりすれば、たくさんの人の手に届くのではないか。例えば、日本の性教育はかなり遅れていると言われていたが、今回選定された性教育の図書を、授業で活用できないか。「このような本がある」という程度でもよいので、本の情報を広く知ってもらえればと思う。

【事務局】採択された教科書は、ホームページに掲載し、広く公開しているが、各学校へのアプローチまでは行えている状況ではない。各校では、毎年選書を行うため、その際、育成学級で使用している図書も参考にされ、新たに配架しているケースもある。採択した教科書のリストは学校に示しているため、通知等で工夫して、学校にしっかり伝えていく。まずは、確実に学校内での情報共有を進めたうえで、学校外との連携についても検討していきたい。

【野口委員】地図に関する本は、細かい文字で高度なことも書かれている。使用するにあたって、生徒の発達の目安は A・B・C の全部が網羅されており、児童生徒の発達の度合いに応じ、多くのことは苦手でも「ここはすごく好き」という場合に、高度なところまで近づける可能性のある教科書を採択することは、多様な学びを実現するためにも有効である。

【高乗委員】現場の教員が子どもの状況に応じて教科書を選ぶ際は、現物に触れ、教員自身が教科書研究をしたうえで次年度の指導計画に反映していくことが非常に大事であると思う。教科書は展示しているとのことだが、閲覧等の状況はいかがか。新たな教科書を手に持ち、改めて研究することは難しいと思うが、支部の研究会・研修会等で集まったときに、新たに採択された教科書に関する話題を提供することはできるのではないか。他にも、次年度の教育課程を組むタイミングを見計らって、事務局から学校に、新しい教科書を紹介していただきたい。これだけの労力かけて魅力的な教科書を選んでいただいているので、できる限り現場の先生方に浸透するような働きかけをしてもらえたらと思う。

【事務局】閲覧数については、正確な数は把握できていないが、研修等で総合教育センターに訪れた際に、教科書を見に来ている教員がいる。教科書については、育成学級の担当者間で情報共有するなど、すでに教員間での情報共有もされている。展示について、改めて積極的な周知に努めてまいりたい。

(議決)

教育長が議案第 12 号 令和 4 年度に京都市立小・中・義務教育学校育成学級及び総合支援学校において使用する教科書の採択について、各委員「異議なし」を確認、議決。

(3) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

7 月 3 日 令和 4 年度教員採用試験第 1 次試験

～4 日

7 月 10 日 銅駝美術工芸高校創立 140 周年記念式典

7 月 11 日 市立芸術大学・銅駝美術工芸高校移転整備事業起工式

7 月 12 日 まん延防止等重点措置解除

○事務局から当面の日程について説明

(4) 閉会

11 時 30 分，教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長